肝炎診療連携パンフレット 2016



大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター



目 次

♦	改訂版によせて・・・・・・・1
•	拠点病院について ・・・・・・・・・・2
•	大分県の肝炎対策 ・・・・・・・・・ 4
♦	肝疾患診療協力医療機関9
♦	市民公開講座 23
♦	地域肝炎治療コーディネーター ・・・・・・・ 29
♦	大分肝炎ネットワーク in 稙田 34
♦	相談件数、肝臓病教室 · · · · · · · · · 35
♦	C型肝炎 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
♦	B型肝炎 · · · · · · · · · · · · 41
♦	アルコール性肝障害 44
♦	自己免疫性肝炎46
•	脂肪肝49
♦	あとがき 52

改訂版に寄せて

肝疾患相談センター 清家正隆

昨年9月からインターフェロンフリーの直接作用型の内服薬が登場し、C型肝炎治療の診療は大きく変化しました。難治性のイメージが強かった肝炎治療も、副作用もなく、しかも3ヶ月という短期間で、内服薬で簡単に治る時代となりました。驚きの連続です。そして、インターフェロンの効果がなかった患者さんやインターフェロンの投与ができなかった患者さんにも十分効果があることが明らかになってきました。無効例、副作用で中止した症例、Child B, C の高度進行肝硬変、移植前後の患者さん等々。しかし、あまりに高額であること、多剤耐性への対応など治療へいたるまでのバリアーは存在します。また、日本特有の状況でしょうか?高齢者への治療も考えさせられます。費用対効果も今後検討すべき問題でしょう。一度肝硬変になり、肝癌、あるいは非代償性肝硬変になり、肝移植が必要になると莫大な医療費を必要とします。そのため、治療を急ぐ必要があることは承知しています。しかし、軽度の肝障害の場合はどうでしょうか?

肝炎診療の喫緊の課題は治療後の管理、あるいは耐性株で治癒しなかった一部の患者の 救済をどうするかに焦点が移っていきます。いずれも協力病院、拠点病院の肝臓専門医、 肝炎治療コーディネーターが連携して克服すべき残された課題です。一方で、進歩した肝 炎治療が行き届かない集団も確実に存在します。肝炎検査をしても結果を知らない、ある いは無症状のため一度も肝炎検査をしていない方がいないか、もう一度留意する必要があ るでしょう。

さて、肝炎診療ハンドブックの改訂版を作成しました。今回は協力病院の紹介をしています。大分県各地の肝炎患者さんがどこを受診すればいいか、参考になるといいです。 肝炎診療もいよいよ大詰めです。肝炎・肝癌撲滅も間近です。ウイルス肝炎が希少疾患になる時期もまもなくです。ガラパゴス化?、NOです。質の高い医療を実現するための通過点です。ご協力よろしくお願いいたします。

◆拠点病院について

厚生労働省は平成 19 年 1 月 26 日全国 C型肝炎対策医療懇談会報告書「都道府県における肝炎検査後肝疾患診療体制に関するガイドライン」において各都道府県において、肝疾患診療体制の確保と診療の質の向上を図ること示しました。これに基づき大分県では

肝疾患診療体制の整備のため、大分県は平成 20 年 4 月、大分大学医学部附属病院を、大分県の肝疾患診療拠点病院に選定しました。拠点病院の業務は、

- 1.肝炎診療のネットワーク、つまり、かかりつけ医、専門医との協力体制を構築し、患者 さんが安心・安全に肝炎治療ができるようにすること
 - 2.患者さん、家族、医療機関からの相談に対応すること
 - 3.肝疾患の研修会を開催し啓発活動を行うこと
 - 4.肝疾患に関する専門医療機関と協議の場を設定することです。

さらに専門医療機関として選定された肝疾患診療協力医療機関として 12 医療施設(のちに 13 医療機関)と連携し、地域によって診療に偏りのないよう、患者さんが等しく最新の治療が受けられるようなしくみを構築することを目指しています。

現在大分県の肝炎診療体制は、大分県肝炎対策協議会で方針をしめし、肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会で、質の高い肝疾患診療ができるよう実務協議を行なっています。 その体制について表 1 および図に示します。





厚生労働省HPより引用

大分県肝炎協議会、肝疾患診療協力病院、肝疾患連携拠点病院、行政の連携を円滑にす すめ、一人でも多くの患者さんが適切な治療を受けることができるように活動しています。

平成 20 年から始った医療費助成も大分県で、国・県の医療費助成を受けた方も、平成 27年 12 月で C型肝炎ではのべ 3400 人、B型肝炎では 1100 人になり、成果をあげています。

◆肝疾患相談センター

拠点病院を中心として、地域における専門医療機関・かかりつけ医間の診療ネットワークのさらなる充実を図る必要があります。その中心的な役割を担うのが肝疾患相談センターです。

平成 20 年度から厚生労働省では、「肝炎治療 7 ヵ年戦略」に基づき、肝炎の早期発見・早期治療を進めるため、肝炎のインターフェロン治療に対する医療費助成、検査の促進、研究の推進など、肝炎総合対策を実施しています。平成 22 年 1 月、「肝炎対策基本法」が施行され、同年 5 月「肝炎対策に関する基本的な指針」が告示され、肝炎に関する基礎、臨床および疫学研究を総合的に推進しています。さらに、肝炎治療戦略会議で「肝炎研究 7 ヵ年戦略」の中間年である平成 23 年度には、平成 24 年度を初年度とする新たな「肝炎研究 10 ヵ年戦略」として、肝炎研究の方向性が提示されました。

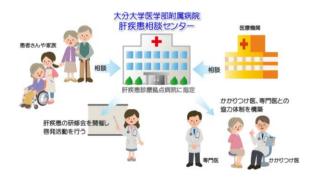
この間、C型肝炎の治療は著しく進歩し、平成26年9月からいよいよインターフェロンフリーの治療が導入され、高齢者や代償性肝硬変の患者に対象が一気に広がりました。C型肝炎はほぼ治癒が期待できる状況が目前になりました。

しかし、感染していることを自覚されていない患者さん、治療の副作用が怖いと治療を 回避される患者さん、治療費が高いという理由で治療を受けられていない患者、仕事が忙 しくて治療が受けられない患者さん、どこに受診していいかわからない、治療が必要であ るにも関わらず受けていない患者さんが多数残されていると考えられています。

治療法は、毎年進歩しています。また、治療の選択肢が広がっています。肝疾患相談センターでは肝臓専門医、看護師、相談員が丁寧にお答えし、肝疾患の正確な情報提供を行い安心して治療ができるようにサポートします。また、県内で行っている市民公開講座、肝臓病教室、肝炎ネットセミナーなどの情報も提供します。

このパンフレットでは、平成 15 年から行っている「日本肝臓学会主催市民公開講座」に加え、「肝炎治療コーディネータ教育セミナー」「肝炎ネット in 稙田」「医療従事者セミナー」「相談例」など平成 20 年から行なってきた活動報告も併せて紹介します。ご参照いただければ幸いです。また、今回は改訂版として県内の肝疾患診療連携協力病院が紹介されています。地域での肝炎患者さんの診療にお役に立てればと思います。

次の章では大分県の肝炎ウイルス検査と医療費助成について紹介します。



文責 清家正隆

1 肝炎ウイルス検査について

ご自身が肝炎ウイルスに感染しているかどうかを確認するためのB型及びC型肝炎ウイルス検査についてご紹介します。

(1) 肝炎ウイルス検査の概要

肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、血液検査 (少量の採血)で判明し、検査結果についても、概ね

1週間程度でわかります。

また、検査を受けたことがない方や、過去に輸血を受けたことのある方は、一度検査を受けてみましょう。

(2) 肝炎ウイルス検査の受け方

大分県では、ア:県と委託契約を締結した医療機関や、イ:保健所においてB型及びC型肝炎ウイルス検査を無料で実施しています。

ア: 医療機関における無料の肝炎ウイルス検査

対象者:過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方

実施場所:県内の協力医療機関

※検査が受けられる医療機関については、大分県ホームページ及び保健所で 御確認ください。

イ:保健所における無料の肝炎ウイルス検査

対象者:過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方

実施場所:各保健所

※検査は予約制ですので、事前に保健所にお問合せください。

詳しくは、大分県ホームページをご覧ください。

(http://www.pref.oita.jp/soshiki/12200/kanenmuryo.html)



なお、県内の市町村においても、健康増進法に基づく肝炎ウイルス検査を実施しています。 詳しくは、お住まいの市町村へお問合せください。

(3)大分県肝炎総合対策推進事業における肝炎ウイルス検査の実施状況

平成19年度	190	2	1.1%
平成20年度	384	7	1.8%
平成21年度	330	3	0.9%
平成22年度	197	2	1.0%
平成23年度	178	2	1.1%
平成24年度	145	0	0.0%
平成25年度	303	6	2.0%
平成26年度	381	2	0.5%
合計	2,108	24	1.1%

平成19年度	809	54	6.7%
平成20年度	419	14	3.3%
平成21年度	354	8	2.3%
平成22年度	193	9	4.7%
平成23年度	176	3	1.7%
平成24年度	144	0	0.0%
平成25年度	305	5	1.6%
平成26年度	383	4	1.0%
合計	2,783	97	3.5%

2 ウイルス性肝炎重症化予防事業について

ウイルス性肝炎は、適切な治療を受けることで重症化予防が可能な疾患ですが、陽性者の多くの方が 医療機関を受診していない現状があるため、陽性者に対する精密検査費用の助成やフォローアップな どを行うことにより早期治療につなげ、ウイルス性肝炎患者等の重症化予防を図ることを目的に、下記事 業を実施しています。

詳しくは、大分県ホームページをご覧ください。

(http://www.pref.oita.jp/soshiki/12200/kanenjyuusyouka.html)

1 検査費用助成

- ※(1)初回精密検査及び(2)定期検査ともに県内9か所の保健所・保健部が申請窓口 となります。ただし、大分市にお住まいの方は、大分県福祉保健部健康対策課が 窓口となります。
- ※検査が受けられる医療機関については、大分県ホームページ及び保健所で御確認ください。
- (1) 肝炎ウイルス検査で陽性と判定された方は、初回精密検査を受けま しょう。(初回精密検査費用の助成)
- (2) 肝炎ウイルスによる慢性肝炎・肝硬変・肝がんで療養中の方は、定期検査を受けましょう。(定期検査費用の助成)

<対象者>

(初回精密検査)

以下の要件にすべて該当する方となります。

- (1)大分県内に居住している方
- (2)1年以内に保健所若しくは委託医療機関または市町村の健康増進事業の肝炎ウイルス検査で陽性と判定された方
- (3) 医療保険各法の規定による被保険者または被扶養者並びに高齢者の医療 の確保に関する法律の規定による被保険者
- (4)過去に精密検査を受けたことがない方
- (5)フォローアップに同意した方

(定期検査)

- 以下の要件にすべて該当する方となります。
- (1)大分県内に居住している方
- (2) 肝炎ウイルスの感染を原因とする慢性肝炎、肝硬変及び肝がんの患者
- (3) 医療保険各法の規定による被保険者または被扶養者並びに高齢者の医療の確保に関する法律の規定による被保険者
- (4) 肝炎治療特別促進事業の受給者証の交付を受けていない方
- (5)住民税非課税世帯に属する方
- (6)フォローアップに同意した方・肝炎ウイルスの感染を原因とする慢性肝炎、 肝硬変及び肝がん患者

<助成回数>

(初回精密検査) 1回

(定期検査) 1回/年

【定期検査における申請書類等について注意】

診断書料等は助成対象外であり、別途費用が必要となります。

申請にあたっては、申請書類の作成にかかる費用(診断書料、世帯全員の住民票や世帯全員の住民税非課税証明書等)と支払った検査費用とを比較してください。場合によっては、助成される費用より、申請書類の作成にかかる費用が高くなることがありますので、医療機関の窓口で診断書料の確認をお願いします。

申請書類等についての詳細は、大分県ホームページをご覧ください。

(http://www.pref.oita.jp/soshiki/12200/kanenjyuusyouka.html)

2 陽性者フォローアップ事業

調査票を送付する等により、医療機関の受診状況や診療状況を確認させていただきます。 検査未受診の場合は、電話等をさせていただきます。

<対象者>

次の(1)及び(2)に該当する方

- (1)保健所または委託医療機関の肝炎ウイルス検査で陽性と判断された方でフォローアップ事業参加に同意された方。
- (2) 肝炎ウイルスの感染を原因とする慢性肝炎、肝硬変、肝がんの患者

<同意書について>

保健所の肝炎ウイルス検査で「陽性」といわれた方は、フォローアップ事業参加 同意書 へ記入をお願いします。

委託医療機関の肝炎ウイルス検査に関する同意書は、検査申し込み時の「肝炎ウイルス検査問診票」が兼ねています。参加を希望する方は、問診票記入時に陽性者フォローアップ事業について「参加を希望します。」を選択してください。



肝炎治療医療費助成制度について

■概要

この事業は、C型ウイルス性肝炎またはB型ウイルス性肝炎の抗ウイルス治療を受けられる方を対象に、医療費を助成するものです。

■対象者

大分県在住で、医療(健康)保険に加入しており、下記に該当する方のうち、認定基準を満たす方。

- ◆C型ウイルス性肝炎の根治を目的として行われるインターフェロン治療とインターフェロンフリー治療(肝がんの合併のないもの)
- ◆B型ウイルス性肝炎に対して行われるインターフェロン治療と核酸アナログ製剤治療 (注)インターフェロン治療のうち、少量長期投与については助成の対象となりません。

■助成内容

助成対象となる治療費(保険診療分)について、窓口での負担が本助成制度で定める自己 負担限度月額を超えた場合に公費で助成を行います。この自己負担限度額は、患者さんの 世帯の所得状況に応じて次のとおりとなっています。

世帯の市町村民税(所得割)の課税年額	自己負担限度額(月あたり)
235,000 円未満の場合	10,000 円
235,000 円以上の場合	20,000 円

■助成期間

【インターフェロン治療】=24週(6ヶ月)または48週(1年間)

特定の条件を満たす場合に延長や2回目の制度利用が認められます。

【核酸アナログ製剤治療】=1年間

医師が治療継続が必要と認める場合、更新が可能です。

【インターフェロンフリー治療】=12週(3ヶ月)または24週(6ヶ月)

原則 1 回のみの助成ですが、肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門 医によって他のインターフェロンフリー治療薬を用いた再治療を行うことが適切であると判断 される場合に限り、改めて助成の対象とすることができます。

■受給者証の交付申請~助成を受けるには~

本助成制度による助成を受けるには、受給者証の交付申請を行い、県の「認定協議会」の審査で認定されることが必要です。(交付は申請月の翌月20日頃になります。)

◆申請に必要な書類

- ①肝炎治療受給者証交付申請書(申請者が記入します)
- ②医師の診断書(主治医が記入します)
- ③患者さんの氏名が記載された健康保険証等の写し
- ④患者さんが属する世帯の全員について記載のある住民票の写し(発行:お住まいの市町村)
- ⑤世帯の全員について市町村民税課税年額を証明する書類(発行:お住まいの市町村) ※市町村民税額合算対象除外希望者がいる場合は、別途必要な書類があります。

■ インターフェロンフリー治療に係る診断書の作成医について

【初回治療】 ①日本肝臓学会肝臓専門医または大分県肝疾患診療協力医療機関の肝疾患担 当責任者(日本消化器病学会消化器専門医)

【再 治 療】 ①肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医

②肝疾患診療連携拠点病院以外の日本肝臓学会肝臓専門医または大分県肝疾 患診療協力医療機関の肝疾患担当責任者(日本消化器病学会消化器専門医) (ただし、肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医の「意見書」を添付すること)

<肝炎治療受給者証の発行状況>

(年度. 件数)

			H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
核酸アナログ製剤治療		新規			521	154	117	140	136
	B型	更新				462	562	634	712
インターフェロン治療	B型		5	7	5	4	10	12	2
	C型		598	314	380	205	207	211	211
インターフェロンフリー治療	C型		_	-	-	-	-	-	332
合 計			603	321	906	825	896	997	1393

(文青 首藤美穂)



(大分県健康対策課 HP より引用)

<u>コーディネーターの皆さん健康対策課 HP ヘアクセスしましょう。</u>

◆肝疾患診療協力医療機関

【概要】

「大分県では2次医療圏に肝疾患診療協力病院を設置しています。肝臓専門医あるいは消化器専門医がウィルス 肝炎・肝がんの診療にたずさわっています。」

	肝疾患診療協力医療機関	住 所	TEL	FAX
東部医療圏	独立行政法人国立病院機構別府 別府医療センター	〒874-0011 大分県別府市大字内電1473番地	0977-67-1111	0977-67-5766
木마区凉 固	国家公務員共済組合連合会 新別府病院	〒874-0833 大分県別府市 大字鶴見3898番地	0977-22-0391	0977-26-4170
	大分県厚生連 鶴見病院	〒874-8585 大分県別府市大字鶴見4333番地	0977-22-0391	0977-26-4170
	大分市医師会立 アルメイダ病院	〒870-1133 大分市大字宮崎1509-2	097-569-3121	097-567-2181
中部医療圏	独立行政法人国立病院機構 大分医療センター	〒870-0263 大分県大分市横田2-11-45	097-593-1111	097-593-3106
	大分県立病院	〒870-8511 大分県大分市大字豊饒476番地	097-546-7111	097-546-0725
	大分赤十字病院	〒870-0033 大分県大分市千代町3丁目2番37号	097-532-6181	097-533-1207
	宇佐高田医師会病院	〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635	0978-37-2300	0978-37-2307
北部医療圏	中津市立中津市民病院	〒8701-0011 大分県中津市大字下池永173番地	0979-22-2480	0979-24-3839
	宮田内科医院	〒871-0015 大分県中津市大字牛神432	0979-23-3375	0979-22-0253
豊肥医療圏	豊後大野市立豊後大野市民病院	〒879-6692 大分県豊後大野市緒方町馬場276番地	0974-42-3121	0974-42-3078
南部医療圏	独立行政法人地域医療機能推進機構南海医療センター	〒876-0857 大分県佐伯市常盤西町11番20号	0972-22-0547	0972-23-0741
西部医療圖	医療法人鶴陽会 岩尾病院	〒877-0012 大分県日田市淡窓2丁目4-29	0973-22-6161	0973-22-6258

独立行政法人国立病院機構 別府医療センター

住所: 〒874-0011 大分県別府市大字内かまど1473番地

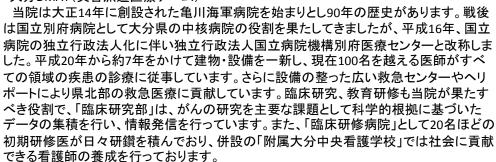
TEL: 0977(67)1111 FAX: 0977(67)5766

URL: http://www.beppu-iryou.jp/

病院紹介

病床数:500床、標榜診療科:32診療科。

- •地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- ・地域周産期母子医療センター
- 地域小児科センター
- ・大分DMAT(災害派遣医療チーム)



スタッフ紹介 (肝疾患担当内科医師)

院長酒井 浩徳消化器内科医長鶴田 悟消化器内科医師井本 効志消化器内科医師桒野 哲史

肝疾患診療実績

C型肝炎治療数: 230名(2005年~) B型肝炎治療数: 92名(2006年~) 肝がん治療数: 85名/年

外来診療の紹介 (外来診療時間・医師)

月~金 受付時間 8時30分~11時00分

鶴田 悟(火·水·木) 井本 効志(月·火·金) 桒野 哲史(木)

酒井 浩徳(月~金 事前予約のみ)



国家公務員共済組合連合会 新別府病院

住所: 大分県別府市大字鶴見3898番地

TEL: 0977-22-0391 FAX: 0977-26-4170

URL: soumu@shinbeppu-hosp.jp

病院紹介

当院は、湯量日本一の温泉観光都市のほぼ中央に位置する新型救急救命センターを併存する急性期病院で、今年でちょうど開院60年になります。病院全体の病床数は263床で、消化器内科はA棟3階に50床あります。肝疾患の患者さんは、この消化器内科で診療を行っています。消化器内科の医師スタッフは6名(下記参照)で、肝炎コーディネーターは10名(ソーシャルワーカー1名、看護師5名、ドクターアシスタント4名)です。平成27年4月から9月までの半年間の肝疾患の入院患者さんは85名で、肝癌、肝硬変、肝炎等の疾患が中心です。肝性脳症、肝癌等の救急対応(同33件)や肝腫瘍に対するソナゾイド造影超音波検査も積極的に行っています(同45件)。

また、消化器内視鏡検査および治療の症例も多く(同4478件)、肝硬変の患者さんによく見られる食道胃静脈瘤の内視鏡的結紮術や硬化療法も行っています(同54件)。現在当院は外来棟と全病棟の建て替え工事中です。既に新病棟は完成しており、平成28年3月には外来棟を含めて全ての工事が完了する予定です(右が完成予想図です)。



スタッフ紹介

香川浩一(消化器内科部長、大分大学臨床教授、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化器病学会指導医)後藤康彦(消化器内科医長、大分大学臨床教授、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化器病学会指導医)

豊田 亮(日本消化器病学会専門医) 野口地塩(日本消化器病学会専門医) 仲谷朋久(日本消化器病学会専門医)

岩尾俊昭(大分大学消化器内科後期研修医)

肝疾患診療実績(平成27年4月から9月)

C型肝炎治療数: C型肝炎ウイルス陽性の外来患者数197名で抗ウイルス薬治療患者26名 B型肝炎治療数: B型肝炎ウイルス陽性の外来患者数50名で抗ウイルス薬治療患者17名 肝がん治療数: 入院治療総数36名(塞栓動注療法28名、経皮的ラジオ波焼灼7名、全身化学療法1名)

外来診療の紹介

午前(08:30-11:00):(月)香川(肝臓外来)、後藤、岩尾 (火)野口、仲谷 (水)豊田、野口

(木)香川、豊田、(金)後藤、仲谷

午後(13:00-15:00):(月)仲谷(火)豊田(水)後藤(木)野口、岩尾(金)香川(肝臓外来)

大分県厚生連鶴見病院

住所: 〒874-8585 大分県別府市大字鶴見4333番地

TEL: 0977-23-7111 FAX: 0977-23-7884

URL: http://www.ok-tsurumi.com

病院紹介

i おります。

厚生連鶴見病院は、病床数230床(一般:212床、緩和ケア病棟:14床、感染症病床:4床)の病院です。現在は肝臓内科も含め32の診療科目と57名の常勤医師にて日々の診療を行っております。
C型肝炎に対する経口剤やIFNでの治療やB型肝炎への核酸アナログやIFNでの治療も積極的に行って

肝硬変の腹水や食道静脈瘤などの多彩な症状に対してもの消化器内科や腎臓内科とも協力して治療しております。



 ・ ・ また肝臓がんの治療は、肝臓内科だけでなく放射線治療科、肝臓・胆のう・膵臓外科、 ・ 腫瘍内科の各科による集学的な治療に取り組んでおります。

スタッフ紹介 常勤医2名と非常勤医2名の計4名で診療を行っております。

常勤医師:大河原均、中嶋宏 非常勤医師:織部淳哉、遠藤 美月

肝疾患診療実績 2015年1月~10月までの統計

C型肝炎治療数:経口剤の内服+IFN治療:73例

B型肝炎治療数:核酸アナログ製剤の内服とIFN治療:41名(肝臓内科での治療)

肝がん治療数:血管造影:34例+外科的切除:15例

外来診療の紹介

肝臓内科の外来は

月曜日から金曜日の午前中(受付時間:午前8時~11時)

また第2・第4水曜日の午後(受付時間:午後1時~4時)に診療を行っております。

大分市医師会立アルメイダ病院

住所: 大分市大字宮崎1509-2

TEL: 097-569-3121 FAX: 097-568-0743

URL: http://www.almeida-hospital.com/

病院紹介

当院は、大分県内のあらゆる地域からの救急患者診療にあたっている三次救急病院です。消化器内科では消化器内視鏡治療はもちろんのこと、 肝胆膵疾患や経腸栄養管理の必要な方、一般内科的疾患の対応まで幅広く対応しております。



スタッフ紹介

小野英樹 (消化器内科部長) 井上邦光 (内視鏡センター長)

田崎貴子 小坂聡太郎 岡嶋智也

肝疾患診療実績

肝疾患の専門外来は設けておりませんが、ウイルス肝炎に対しての抗ウイルス療法の 導入は適宜行っております。ご紹介いただければいつでも対応いたします。

外来診療の紹介

消化器内科外来 月曜と水曜日は 小野英樹 金曜日は 井上邦光 が担当 その他の時間帯でも、救急対応は随時可能です。

大分医療センター

住所: 〒870-0263 大分県大分市横田二丁目11番45号

TEL: 097-593-1111 FAX: 097-593-3106 URL: http://nho-oita.jp/

病院紹介

当院の独立行政法人化に向けての基本構想「肝」「がん」を共に取り扱う診療科です。 当科では長年の伝統もあって、毎日の外来 患者約100名の8割は肝疾患の患者で、毎 日3名の医師が外来診療に当たっています。 C型肝炎やB型肝炎に対する抗ウイルス療 法、肝細胞癌に対しては経皮的ラジオ波凝 固療法(RFA)、肝動脈塞栓術、持続動注療 法等を行っています。

外科と放射線科との連携により、毎週の合同カンファレンスの下、1例1例を十分に検討して最良の治療にと役立てています。 尚毎月第2月曜日14時から肝臓病教室を薬剤師・栄養士とともに開催しています。 基本理念 最新の医療技術・知識の習得に励み 病める人の立場に立ち 人の尊厳・権利を尊重し 「愛の心・手」で 最良の医療サービスを提供します



スタッフ紹介

室豊吉 (院長 肝臓専門医、消化器病学会専門医、内視鏡学会専門医・指導医)

福地聡士(部長 消化器病学会専門医、内視鏡学会専門医)

山下勉 (医長 肝臟専門医、消化器病学会専門医、内視鏡学会専門医)

新関修 (医長 消化器病学会専門医、内視鏡学会専門医)

梶本展明 (消化器病学会専門医、内視鏡学会専門医)

得丸智子

肝疾患診療実績

C型肝炎治療数: インターフェロンフリー治療 約70人 B型肝炎治療数: 抗ウイルス薬の内服治療 約100人

肝がん治療数:腹部血管造影 約130人/年、経皮的ラジオ波焼灼療法 約50人/年

外来診療の紹介	月	火	水	木	金
	福地	室	福地	新関	室
	山下	新関	山下	山下	福地
	梶本	山下	得丸	得丸	梶本

大分県立病院

住所: 大分市豊饒476 TEL: 097-546-7111 FAX: 097-546-0725

URL: http://hospital.pref.oita.jp/

病院紹介

当院には4名の肝臓専門医(内科3名、 外科1名)が在籍し、消化器専門医や若 手医師、研修医とともに診療を行ってい ます。慢性肝炎を初め肝硬変、肝癌な ど多くの肝臓病の患者さんが通院、入 院しており、豊富な治療経験が蓄積され ています。近年肝臓病の患者さんは高 齢化傾向にあり、多くの合併症を持って いることがあります。総合病院である当 院ではさまざまな科の専門家と協力し 対応することができます。また肝がんの 治療においては内科、外科、放射線科 の医師が協力することが大切です。各 科と定期的なカンファレンスを行いまた 最新の医療機器を使用して個々人が最 適な治療を受けられる態勢をとっていま



スタッフ紹介

消化器内科部長:加藤有史(肝臓専門医)

副部長:西村大介(肝臓専門医) 副部長:高木崇(肝臓専門医) 庄司寛之(消化器専門医) 藤富真吾、堤康志郎、森智崇

肝疾患診療実績

C型肝炎治療数:95例 B型肝炎治療数:55例 肝がん治療数:128例

外来診療の紹介

外来診療時間・医師等:新患 月曜~金曜 午前8時30分~午前11時まで受付。曜日毎 に担当医は異なります。

再来:月曜~金曜 予約制 超音波検査:月曜~金曜 午前

大分赤十字病院

住所: 大分市千代町3丁目2-37 TEL: 097-532-6181 FAX: 097-533-1207 URL: http://www.oitasekijyuji.jp/

病院紹介

肝胆膵内科は外科・放射線科と連 携し、診療しています。消化器内科 とは垣根をなくし常に協力し診療に 当たっています。治療法の決定に おいては内科治療に固執すること なく外科・放射線科との合同カン ファランスにて協議し、外科的治療 法、放射線科による抗癌剤の動注 療法など、個々の患者さんに対し 最適な治療を提案させて頂いてお ります。C型慢性肝炎に対するイン ターフェロンフリー治療も積極的に 行っております。また、近年増加傾 向である脂肪肝に対しても、糖尿 病代謝内科と連携し、治療を行っ ております。



スタッフ紹介

成田竜一、本村充輝

肝疾患診療実績

肝悪性腫瘍に対す経皮的ラジオ波焼灼療法:15件

肝針生検:35件

インターフェロンフリー治療:30例

外来診療の紹介

外来診療時間・医師等:月・水・金曜日 午前中

宇佐高田医師会病院

住所: 宇佐市南宇佐635 TEL: 0978-37-2300 FAX: 0978-37-2307

URL: www.utihp.jp

病院紹介

宇佐高田医師会病院は、大分県宇佐市にあります。 宇佐市医師会と豊後高田市医師会により、昭和57 年に設立されました。

平成23年に地域医療支援病院に指定され、宇佐市・ 豊後高田市の医療を支えるへき地医療拠点病院と して日々の患者様の診療にあたっております。 紹介型病院であり、原則として紹介状をお持ちの患 者様を対象とした診療を行っておりますが、急患に 関しては随時対応をさせていただいております。 常勤医の人数は決して多くありませんが、循環器・ 呼吸器・消化器内科・消化器外科の常勤医が在籍し、 大分大学や鶴見病院から非常勤医師の診療支援を いただいております。

指定病院など

(財)日本医療医機能評価機構認定(Ver 5.0)

2次救急指定医療機関

災害拠点病院

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設

日本消化器病学会関連認定施設

肝疾患診療協力医療機関 など



スタッフ紹介

診療支援室:熊川閱子 臨床検査技師:磯村信一 地域連携室:吉田茂樹 (腹部エコー) 今永一彦

外来看護主任:水江明美 江熊希美 など

肝疾患診療実績

C型肝炎治療数: 肝炎治療受給者証申請者件数 10件 B型肝炎治療数: 肝炎治療受給者証申請者件数 5件

肝がん治療数: 肝がん治療に関しては診断後に連携医療機関へ紹介となります

外来診療の紹介 消化器科

外来診療時間・医師等: 月曜日~金曜日 部長 松成 修 月曜・金曜

受付時間8:30~11:00 医員 木下 慶亮 水曜

非常勤医師 中島 仁典 火曜・木曜

中津市立 中津市民病院

住所: 中津市下池永173番地

TEL: 0979-22-2480 FAX: 0979-22-2481

URL: http://www.city-nakatsu.jp/hospital/

病院紹介 大分県北部の基幹病院として一部は福岡県からの患者さんも受け持っています。

肝疾患に関してはB型肝炎に対する核酸アナログ治療、インターフェロン治療、 C型肝炎に対するインターフェロン治療、経口抗ウイルス剤の治療に対応しています。

肝細胞がんに対する治療も外科、内科、放射線科が協力し ラジオ波焼灼療法、肝動脈塞栓療法、リザーバー留置下肝動注化学療法、 外科手術、放射線療法、分子標的薬による治療まで 患者さんの状況に合わせ様々な治療手段で対応可能です。



スタッフ紹介 ・横田昌樹(消化器内科) 消化器病学会専門医、指導医、 肝臓学会専門医、がん治療認定医機構がん治療認定医、暫定指導医

- ・日高 啓(放射線科) 放射線学会専門医、インターベンション学会IVR指導医、 消化器病学会専門医、がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・岸原文明(外科) 外科学会専門医・指導医、消化器外科学会専門医・指導医、 消化器病学会専門医、がん治療認定医機構がん治療認定医

肝疾患診療実績 H26年度

C型肝炎治療数:インターフェロン、経口抗ウイルス薬合わせて66例

B型肝炎治療数:核酸アナログ44例

肝がん治療数:ラジオ波焼灼34、エタノール注入26、肝動脈塞栓術 110、リザーバー動注4 外科手術 7(原発性肝がん)

外来診療の紹介

外来受付時間 月~金 8:30-11:00 消化器内科 横田 (水曜)

放射線科 日高 (月 ~ 金曜) 外 科 岸原 (火、水、木曜)

医療法人 宮田内科医院

住所: 〒871-0015 大分県中津市牛神432番地

TEL: 0979-22-3375 FAX: 09792-0253

URL: miyata-119@tiara.ocn.ne.jp

病院紹介

JR中津駅より徒歩15分、中津中学校の向いにある無床診療所です。

消化器疾患(特に肝疾患)を中心に診療を行っています。

スタッフ紹介

院長(荻原健、日本消化器病学会認定消化器病専門医)、看護師4名、事務スタッフ3名

肝疾患診療実績

C型肝炎治療数:インターフェロン治療約130例、インターフェロンフリー治療約40例

B型肝炎治療数: インターフェロン治療約10例、核酸アナログ治療約40例 肝がん治療数: 早期発見につとめ、中津市民病院等と連携して診療しています。

外来診療の紹介

外来診療時間:月~金8:30~12:30、14:00~17:30、土8:30~12:30

日曜祭日、年末年始、盆休診

豊後大野市民病院

住所: 〒879-6692 大分県豊後大野市緒方町馬場276番地

TEL: 0974-42-3121(代表)

FAX: 0974-42-3078

URL: www.bungo-ohno-hp.jp

病院紹介

H25年11月までは消化器内科常勤医1名、同年12月からは常勤医2名で診療を行っている。 消化器外科医の協力のもと、午前中に上部消化管内視鏡検査、午後に下部消化管内視 鏡検査を行っている。

総胆管結石・急性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージ、急性胆嚢炎に対する経皮的 胆嚢ドレナージ、吐下血に対する内視鏡的止血術は緊急で行える体制をとっている。

また、早期胃癌については積極的に内視鏡的粘膜下層剥離術を施行し、侵襲の少ない治療を目指している。

肝疾患については、慢性C型肝炎に対する経口抗ウイルス剤(DAAs: direct antiviral agents)、慢性B型肝炎に対する核酸アナログの導入や、必要に応じて肝生検による精査を行っている。肝細胞癌に対しては放射線科医師の協力を得て、経動脈腫瘍塞栓術を施行している。

地域の特性上、高齢者が多く、複数の合併症を有していることから、可能な限り低侵襲な治療法を心掛けている。

現在、消化器外科医も含め、日本消化器内視鏡学会専門医4名(指導医3名)、日本消化器病学会専門医4名、日本肝臓学会専門医1名が常勤しており、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会関連施設に認定されている。

スタッフ紹介

消化器内科部長:棚橋 仁 (平成12年大分大学医学部卒)

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、 日本ヘリコバクター学会認定医、医学博士

消化器内科医師:和氣 良仁 (平成22年大分大学医学部卒)

肝疾患診療実績

C型肝炎治療数:25名 B型肝炎治療数:12名

肝がん治療数:5名(TACE-TAI)

外来診療の紹介

外来診療時間 医師等

棚橋 仁 (火・金曜日:午前8:30~11:00) 和氣 良仁 (月曜日:午前8:30~11:00)

独立行政法人地域医療推進機構 南海医療センター

住所: 大分県佐伯市常盤西町11-20

TEL: 0972-22-0547 FAX: 0972-23-4083

URL: http://nankai.jcho.go.jp/

病院紹介

当院は、昭和22年10月佐伯の地に創立され、 以来総合病院として大分県南の中核医療を担っ ております。公的活動としては、へき地医療拠点 病院、第2次救急指定病院、第2種感染症指定病 院、地域災害拠点病院、大規模自然災害や人災 事故に対するための機能を備えた大分DMAT指 定病院、大学卒業後の医師教育のための協力型 臨床研修病院(大分大学)等の施設基準を有して います。

また平成26年4月1日から当院は、「独立行政法人地域医療機能推進機構(英語表記の略称はJCHO:ジェイコー)」に管理運営されることになり、「健康保険南海病院」から「南海医療センター」に変更いたしました。

新たに肝疾患診療協力医療機関にも認定され、 今後も地域医療に貢献すべく、患者様一人一人 へ最善の医療を行っていきたいと思いますので 皆様のご協力を宜しくお願いします。



スタッフ紹介

常勤医師: 綿田 雅秀 (日本肝臓学会会員 日本消化器病学会専門医)

有木 晋平 (日本消化器病学会会員)

衛藤 孝之 (日本肝臓学会会員 日本消化器病学会会員)

非常勤医師: 寺尾 英夫 (日本肝臓学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医)

肝疾患診療実績

C型肝炎治療数:平成26年度約100名平成27年度(10月末時点)約130名B型肝炎治療数:平成26年度約150名平成27年度(10月末時点)約130名肝がん治療数:平成26年度約90名平成27年度(10月末時点)約60名

外来診療の紹介

月曜日(午前):有木(第1•3•5週) 水曜日(午前):有木

綿田(第2·4週) 木曜日(午前):綿田

火曜日(午前):衛藤 金曜日(午前):綿田

(午後):寺尾

医療法人鶴陽会 岩尾病院

住所: 〒877-0012 大分県日田市淡窓2-4-29

TEL: 0973-22-6161 FAX: 0973-22-6258

URL: http//iwao-hospital.jp

病院紹介 当病院は古風な街並みで定評のある豆田町から南に500メートルに立地して

います。1933年に岩尾忠治が岩尾内科医院を開設し、1971年に岩尾病院となりました。診療分野は内科全般、特に糖尿病と消化器疾患に重点を置いています。常勤医の理事長:岩尾忠、院長:境研二、副院長:安東栄治は、消化器病および肝臓専門医の資格を有しています。患者さんは日田市在住の方が大半ですが、玖珠郡、朝倉郡、小国町、うきは市の方も受診いただいています。福岡県に隣接しているため、多数のC型肝炎の患者さんが来院されます。現在、直接作用型抗ウイルス薬による治療を広く行っています。慢性肝疾患では肝発癌が重要であり、久留米大学病院、



大分大学病院、済生会日田病院、久留米中央病院などと医療連携を行い診療しています。 「地域のために開かれた医療」を基本理念として掲げています。全人的な医療を 提供し、地域社会に貢献したいと考えています。

スタッフ紹介

看護師長:村野理恵子。副看護師長:松尾智美、平島千奈。病棟主任:野上啓介。

疾患診肝療実績

C型肝炎治療数: インターフェロン治療総数:約1400例、経口抗ウイルス薬:約30例(進行中)

B型肝炎治療数:約30例

肝がん治療数:専門施設に紹介しています。

外来診療の紹介

外来診療時間・医師等:8:30~17:30、土曜日は8:30~12:30。 火曜日の15:30~、木曜日の14:00~、金曜日の16:00は非常勤医の外来です。 それ以外は常勤医が外来を行っています。

◆地域肝炎治療コーディネーター

地域肝炎治療コーディネーターは、患者さんとかかりつけ医、患者さんと肝臓専門医、 かかりつけ医と肝臓専門医の架け橋になるような役目を担っています。

<地域肝炎治療コーディネーターの役割>

- ●検査未受検者に対する肝炎ウイルス検査の受検勧奨 検査の必要性や検査方法の説明をするなど、検査未受検者に対し肝炎ウイルス検査の 受検を勧める
- ●陽性者に対する保健指導の実施 肝炎ウイルス検査結果の説明、陽性者に対する医療機関への受診勧奨、肝炎に関する 各種制度(治療費助成制度、陽性者フォローアップ事業等)の説明
- ●肝炎患者等からの相談 肝炎患者さんや家族などからの相談に応じる
- ●正しい知識等の情報提供、普及啓発 個別面談や肝炎教室等を通し、肝炎に関する検査、治療方法、生活、食事、服薬、 治療費助成制度などについてアドバイスをする

<地域肝炎治療コーディネーター養成講座>

平成23年度から養成講座を2回開催し、合計225名のコーディネーターが誕生しました。

第1回 地域肝炎治療コーディネーター養成講座
日時 平成23年10月18日 ~ 12月4日
受講者 177名
第2回 地域肝炎治療コーディネーター養成講座
日時 平成26年6月14日
受講者 48名

<活動継続の意志確認>

平成27年10月、セミナーの参加が無いコーディネーターの方へ、活動継続の意志確認を行いました。 その結果、現在は128名のコーディネーターの方が活動されています。

*コーディネーターの所属機関

	第1回	第2回	合計
医療機関	105	33	138
行政	47	13	60
その他	25	2	27



現在(平成27年12月)		
医療機関	95	
行政	27	
その他	6	

*コーディネーターの職種

	· / U/190/13	±	
	第1回	第2回	合計
看護師	87	24	111
保健師	66	15	81
MSW	15	4	19
医師	1	0	1
その他	g	5	13



現在(平成27年12月)		
看護師	70	
保健師	36	
MSW	12	
医師	0	
その他	10	

その他:管理栄養士、事務、衛生管理者、元患者など

■地域肝炎治療コーディネーター教育セミナー

コーディネーターと医療従事者を対象に、肝炎治療の最新情報のお届けとコーディネーターの スキルアップを目的として開催しています。

<開催日程>

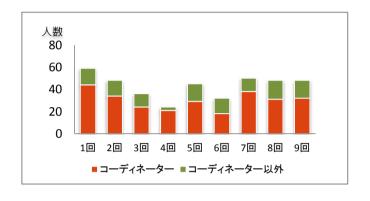
	テーマ	講演	演者	会場	参加者
第1回	安心して 最新の治療を受けるために	熊本県における 肝炎・肝がん地域連携の 現状と課題	島根大学医学部附属病院 佐藤秀一先生 国立病院機構熊本医療センター 西山慎吾先生 消化器内科 医長 杉和洋先生	大分医師会館 平成24年3月29日(木)	72
第2回	安心して最新の治療を受けるために	当院における 肝炎診療の現状 -地域連携の観点から-	大分大学医学部附属病院 本田浩一先生 藤田幸子先生 九州厚生年金病院 肝·胆·膵·消化管内科 部長 一木康則先生	大分医師会館 平成25年3月14日(木)	69
第3回	安心して 最新の治療を受けるために	C型肝炎治療の新展開	大分大学医学部附属病院 本田浩一先生 医療法人創起会 〈まもと森都総合病院 肝臓・消化器内科 部長 宮瀬志保先生	ホルトホール大分 平成25年10月22日(火)	55
第4回	肝炎治療コーディネーター の今、これから	佐賀県における 肝炎診療の現状	佐賀大学医学部附属病院 佐賀県統括肝炎コーディネーター 泉夏美先生 肝疾患医療支援学 講師 河口康典先生	ホルトホール大分 平成26年3月4日(火)	42
第5回	肝炎治療コーディネーター のこれから	ALL佐賀で取り組む 肝炎コーディネーターの 活動	大分大学医学部附属病院 本田浩一先生 佐賀大学医学部附属病院 佐賀県統括肝炎コーディネーター 泉夏美先生	ホルトホール大分 平成26年10月9日(木)	51
第6回	現場からの声 受検・受診・受療 それぞれの問題点	クリニックにおける 肝炎診療の関わり方	大分大学医学部附属病院 本田浩一先生 内科阿部医院 地域肝炎治療コーディネーター 戸次菊枝先生 大口市子先生	ホルトホール大分 平成27年1月22日(木)	54
第7回	現場からの声 受検・受診・受療 それぞれの問題点	C型肝炎の最新情報 事例報告 行政における受検の取り 組み 院内における肝炎スクリー ニング検査の現状	大分大学医学部附属病院 本田浩一先生 臼杵市役所 地域肝炎治療コーディネーター 石田幸江先生 新別府病院 地域肝炎治療コーディネーター 藤本絢子先生	ホルトホール大分 平成27年3月19日(木)	59
第8回	現場からの声 受検・受診・受療 それぞれの問題点	C型肝炎の最新情報 事例報告 大分市の肝炎ウイルス検 診の現状と課題 厚生連健康管理センター における肝炎の取り組み	大分大学医学部附属病院 本田浩一先生 大分市保健所保健予防課 白石清美先生 大分県厚生連鶴見病院 大河原 均先生	ホルトホール大分 平成27年6月25日(木)	51
第9回	進歩を遂げた肝炎治療を 届けるために	C型肝炎及びB型肝炎の 最新情報 肝炎治療に関する医療費 助成について	大分大学医学部附属病院 本田浩一先生 大分県福祉保健部健康対策課 首藤美穂先生	ホルトホール大分 平成27年9月17日(木)	55

■セミナー参加者へのアンケート

セミナーへ参加して頂いた方々にアンケートを実施。大変多くのご意見を頂きました。

*回答者の内訳

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
コーディネーター	44	34	24	21	29	18	38	31	32
コーディネーター以外	15	14	12	3	16	14	12	17	16
回答者数	59	48	36	24	45	32	50	48	48
回答率	82%	70%	65%	<i>57</i> %	88%	59%	84%	94%	87%



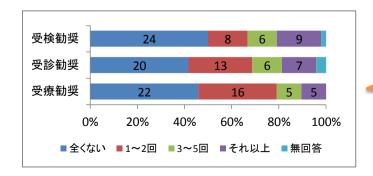
参加者は医師、看護師、 保健師が多く、その他の 職種は減少傾向

*職種

	1 🗆	2回	3回	40	5回	6回	7回	80	90
医師	5	4	2	1	1	0	0	0	3
保健師	11	6	6	6	11	9	11	23	9
看護師	33	34	20	14	28	18	35	22	30
薬剤師	1	0	1	0	1	0	0	0	0
MSW	2	1	1	1	3	2	2	1	4
行政	0	0	1	0	1	0	0	0	0
事務	3	1	3	1	0	2	1	2	1
栄養士	0	1	0	1	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	0	0	1	1	0	0
無回答	0	1	2	0	0	0	0	0	1

*肝炎に関する質問・相談を受けたことがある方の割合

10	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回
27%	48%	53%	67%	73%	41%	78%	68%



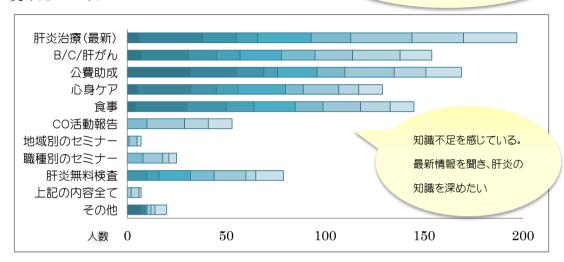
第9回は、相談内容別に、 年間の頻度を選択式調査

*肝炎患者さんを専門医へ紹介したことがある方の割合

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	80	9回
25%	21%	11%	38%	13%	28%	22%	33%	23%

主治医の先生が紹介されるので、 紹介をすることがない

*受けたいセミナー

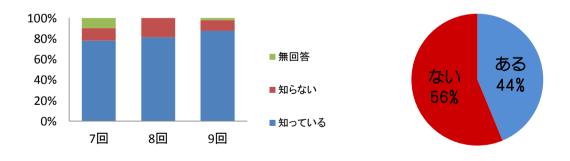


(ご意見)

- ・ディスカッションよりも内容をもっと増やしてほしい。セミナーは情報提供の場と考えています。
- ・コーディネーターの活動報告はとても参考になります。

*肝疾患相談センターの認知度

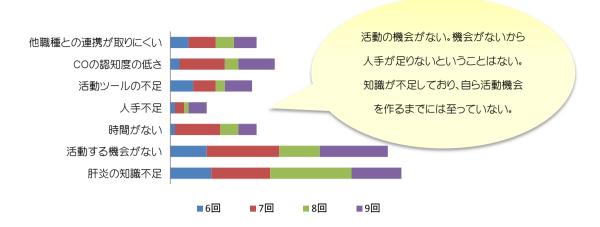
*肝疾患相談センターの ホームページへのアクセス



*コーディネーターとして困っていることがある方の割合

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
41%	32%	13%	52%	41%	89%	76%	87%	78%

*コーディネーターとして困っている内容(第6回から選択式調査)



・活動ツールが不足しているとの声を受けて、「肝炎やさしく解説 Q&A集」を作成しました。

*「肝炎やさしく解説 Q&A 集」の利用頻度

	7回	8回	9回
頻繁に利用している	3	3	1
時々利用している	26	22	23
全く利用していない	9	6	7

患者さんから質問を受け た時など、大変役に立っ ている。利用する機会が 少なくもったいない

- *その他、活動に際してどのようなツールがあれば良いかを伺いました
 - アピールするポスターなど・認知度をアップさせるもの
 - ・教育セミナー(参加するたびに、最新の情報が聞ける。肝炎関係のセミナーは少ないので)
 - ・他医院での看護師の活動情報
 - ・なかなか検査済みかを尋ねる機会がありません。院内の取り組みという範囲ではあまり効果的ではないため。初診の際に使用できるチェックシートなどがあると、受検、受療につながるのではないかと思う。チェックシートを用いることで、患者さん自身の受療の自覚にもつながるのではないか。例)「C型肝炎といわれたことがありますか?」→ YES・NOで回答

(最終的に受療につながるようなシート)

*地域肝炎治療コーディネーター活動へのご意見

- ・コーディネーターの方は、コーディネーター以外にも知識の普及をしてほしい
- ・市民を対象とした活動のようなものが出来れば良いと思う(予防的なもの)
- ・病院スタッフ(消化器内科の患者さんに関わるスタッフ)に対する学習会をしてほしい
- ・コーディネーターの方には、受検、受診、受療の説明から受療後のフォローを行ってほしい
- ・医療従事者だけでなく、もっと他職種、他部門からコーディネーターを育成された方が良い
- ・スタッフ教育、スタッフへの B型ワクチン接種、感染対策としての活動を行っていきたい
- ・肝炎は治る時代ということを感染者にも知らせて、治療を勧めていきたい

◆市民公開講座

大分県では肝がん撲滅を目指して、「大分方式」ということで、大分県各地で肝臓学会主催の市民公開講座を行なっています。肝臓週間や日本肝炎デーにあわせて、平成 15 年から開催しており、現在まで約 10000 人の大分県民が参加しています。市民公開講座の際に、アンケートを参加者にお願いしております。その結果もあわせ掲載していますので、ご参照ください。

市民公開講座 参加人数 平成 15 年~平成 27 年

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
開催 責任者	清家正隆	寺尾英夫	加藤有史	香川浩一	森 哲	大河原 均	一木 康則 寺尾英夫	酒井浩德	横田昌樹	成田竜一	本田浩一	西村大介	鶴田 悟
中津	69	118	61	92	76	91	145	150	81	45	84	65	75
大分	132	151	143	116	320	485	241	230	103	237	402	487	457
宇佐	76	26	73		190				75				
別府	48	97	59	93	110	120	120	56	52	35	49	95	98
竹田	77	113	91	63	58	63	68			42			55
豊後 大野	71	53	72		61			32				76	
国東	73	21	40					41					
由布市	169	34	29		88		48					57	
臼杵	63				105	30			57				
佐伯	38		21	23	74	50		35		39	37		33
安心院				52	41				52				
日田			93	156		78		101	91	72	134		
玖珠			52		78			51					
豊後高田							85						
竹田					48								
総数	816	613	734	595	1249	917	707	696	511	470	706	780	718











■市民公開講座アンケート

1.参加者

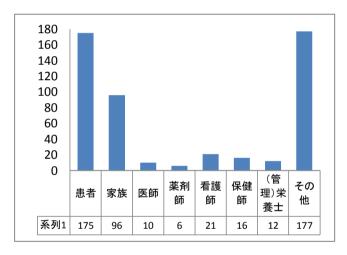
	24年	度	25年	F度	26年	F度	27年	F度
	参加	回答	参加	回答	参加	回答	参加	回答
大分 I	165	119	377	302	487	303	457	321
大分Ⅱ	72	58	***********************	********************************	***************************************	***************************************	******************************	************************
中津	45	36	70	50	65	41	64	52
日田	72	61	120	87	****************	**************	*****************************	****************************
別府	35	23	29	20	95	71	82	67
由布	******************	*************************	******************************	***************************************	55	36	***************************************	****************************
豊後大野			***************************************	***************************************	66	61	***************************************	***********************
竹田	42	25	*****************************				55	51
佐伯	39	22	20	19	***************************************	***************************************	25	22
計	470	344	616	478	768	512	683	513

2.参加者の性別

	25年度	26年度	27年度
男性	155	176	163
女性	317	330	347
無回答	6	6	3

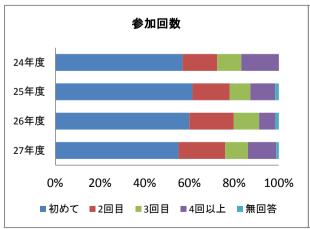
3.参加者の年齢

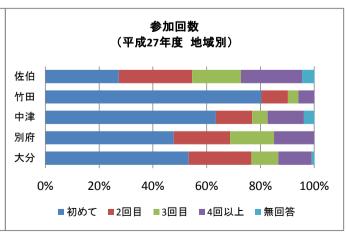
	25年度	26年度	27年度
10代	0	1	0
20代	16	10	10
30代	45	18	21
40代	45	39	41
50代	59	55	60
60代	120	151	147
70代	154	184	179
80代	34	51	53
90代	1	0	1
無回答	5	3	1



4.参加回数

初めての参加が約60%を占める。





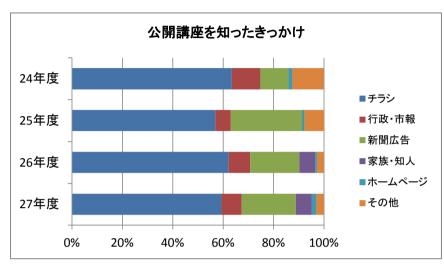
5.市民公開講座を知ったきっかけ

きっかけはチラシからが60% (グラフ1)

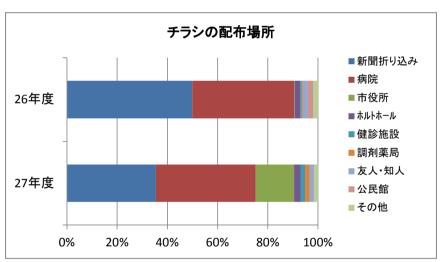
チラシの配布場所は、新聞の折り込みと病院が多数(グラフ2)

地域別では、佐伯市、中津市、別府市は病院のチラシを見て参加の方が多く、竹田市は竹田市役所 保険健康課からのチラシを見て参加した方が多い (グラフ3)

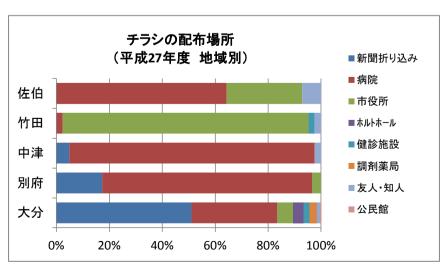
グラフ1



グラフ2

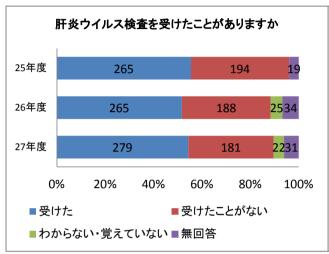


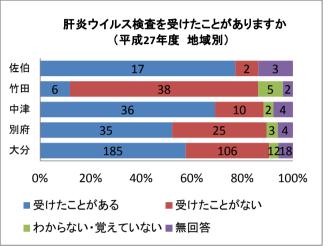
グラフ3

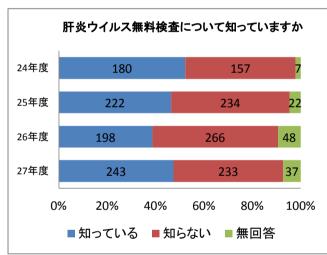


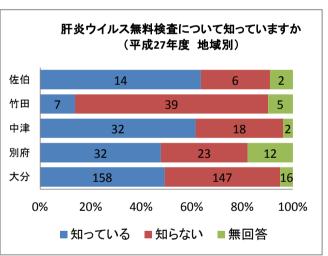
6.肝炎ウイルス検査の受検について

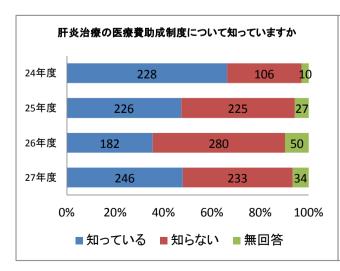
ウイルス検査を受けたことがあると回答した方は、平成25年度の調査開始以降、約50%。地域別では、 佐伯市、中津市の受検率が高い(受けたことがある:約70%)。大分市、別府市も、全国平均の50% よりも高い。一方、竹田市の受検率は11%と非常に低い。肝炎無料検査の認知度も低い。しかし、竹田 市は参加者の20%が肝臓病の患者さんであることを考慮すると、受けたことがあっても、そのことを認 知していない方が多くいると考えられる。

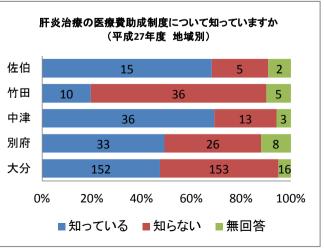






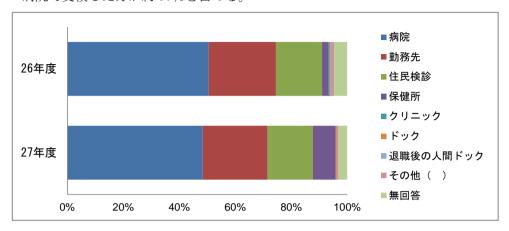






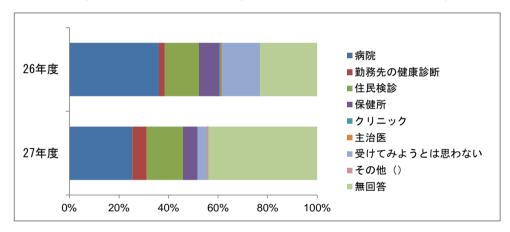
7. (肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答した方へ) 肝炎ウイルス検査をどこで受けましたか

病院で受検した方が約50%を占める。



8. (肝炎ウイルス検査を受けたことがない、わからないと回答した方へ) 今後、肝炎ウイルス検査を受けてみようと思う施設はどちらですか

病院、住民検診が多く、勤務先は少ない。受けてみようとは思わない方も多い。



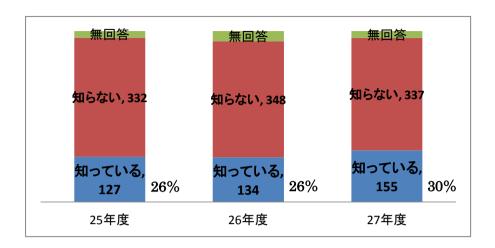
9.肝炎治療の情報はどこから得ていますか

主治医、新聞からの情報が多い。インターネットとの回答も徐々に増えている。

	大分	別府	中津	竹田	佐伯	合計
主治医	105	25	27	7	10	174
友人	3		1	1		5
新聞	95	21	12	7	8	143
テレビ・ラジオ	68	11	5	8	3	95
製薬会社	3	4		1	3	11
行政	19	5	5	6	1	36
肝臓学会HP	1	2	1		1	5
インターネット	20		1			21
講演会	2					2
病院	2	1	2			5
勉強会(研究会)			1			1
医大図書館・本	1	1				2
特になし	2	1		1		4
無回答	84	15	11	24	7	141

10.肝疾患相談センターについて知っていますか

肝疾患相談センターの認知度は依然低い。ホームページのリニューアルやチラシ配布等の広報活動を 行ったが、未だ効果は出ていない。今後の課題である。



◆大分肝炎ネットワークin稙田

かかりつけ医の先生方とともに最前線で患者さんを診療されている先生方と一緒に勉強会をしています。最新情報と講師はそれぞれの地区で肝炎診療で活躍している先生方に講演をお願いしています。

	日時	講演者		場所
第1回	平成22年9月14日(火)	大分大学医学部附属病院	清家正隆 先生	稙田市民行政センター
*** o 🗔	亚代00年4月40日/小	大分大学医学部附属病院	本田浩一 先生	****
第2回	平成23年1月18日(火)	琉球大学医学部附属病院	前城達次 先生	稙田市民行政センター
第3回	平成23年7月21日(木)	大分大学医学部附属病院 宮崎大学医学部附属病院	遠藤美月 先生 永田賢治 先生	種田市民行政センター
あり凹	十八八八十八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八	古响入于区于印附属例院	小田貝加 九工	他田中氏行政センター
第4回	平成24年1月17日(火)	広島大学病院	北本幹也 先生	稙田市民行政センター
		大分大学医学部附属病院	織部淳哉 先生	
第5回	平成24年7月24日(火)	弘前大学医学部附属病院	遠藤 哲 先生	稙田市民行政センター
<i>ff</i> • □	T-10-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	佐藤医院	佐藤愼二郎 先生	
第6回	平成25年1月31日(木)	久留米大学病院	宮島一郎 先生	稙田市民行政センター
第7回	平成25年7月19日(金)	大分大学医学部附属病院 長崎医療センター	織部淳哉 先生 山崎一美 先生	稙田市民行政センター
7,7,1	1,77=0 1,77:0 = (==)	大分医療センター	山下 勉 先生	
第8回	平成26年4月18日(金)	旭川医科大学病院	大竹 孝明 先生	稙田公民館
答り回	亚芹00年10日00日(水)	大分大学医学部附属病院	本田 浩一 先生	
第9回	千成26年10月28日(火) 	呉 <u>医療センター・</u> 中国がんセンター	高野 弘嗣 先生	稙田市民行政センター
第10回	平成27年4月21日(火)	大分大学医学部附属病院 松江赤十字病院	清家 正隆 先生 内田 靖 先生	稙田市民行政センター
2,000		鶴見病院	大河原 均 先生	
第11回	平成27年11月19日(木)		長岡 進矢 先生	稙田市民行政センター

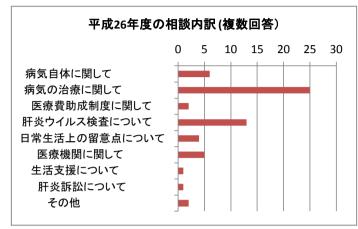


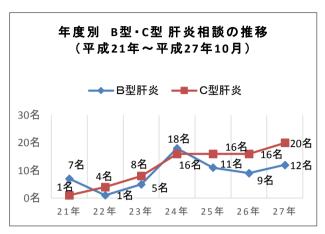
豊後富士

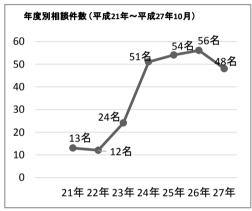
◆相談件数

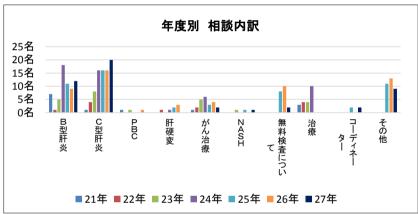
平成26年度は肝疾患相談センターへ患者様やご家族、医療関係者の方より、ご相談をいただきました。寄せられた相談は56件となりました。相談内容は以下のとおりとなっております。

例年、肝炎治療や無料検査のお問合せが多く、今後も肝炎検査や治療推進の情報を発信していけたらと思います。また、ご相談等がありましたら、肝疾患相談センターの肝臓専門医や相談員へお気軽にご相談ください。









お問合わせ先 : 大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター TEL/FAX 097-586-5504

■家族支援講座

肝臓病教室とともに活動の場を広げて患者様やご家族の方などに支援講座を開催していく予定です。 肝炎治療コーディネーターの方、患者様とご家族の方のご参加をお待ちしております。

患者様、ご家族の方へ是非、お声かけをお願いいたします。

開催予定の詳細は 決定次第、HPにUPしてい きます!!

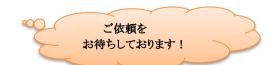
【開催日時】

平成28年2月28日(日) 14:00~ ホルトホール大分 大会議室

◆肝臓病教室

大分大学附属病院にて 平成27年5月29日 第32回 「肝炎・肝がんについて」の内容で は西村順子先生 にご指導いただきました。今後は出張肝臓病教室も予定しております。出張肝臓病教室のご依頼などがあれば、可能な限り受けていきたいと思いますので、肝疾患相談センターまでご連絡をください。

肝臓病教室の内容	講師	月日
第1回 「肝炎の医療費助成について~4月からの変更点」	清家先生	平成22年 4月16日(金)
第2回 「肝がんについて」	遠藤先生	平成22年 5月 7日(金)
第3回 「慢性肝炎について」	宮川看護師	平成22年 5月21日(金)
第4回 「慢性肝炎について」	清家先生	平成22年 6月 4日(金)
第5回 「食事のパランスについて」	足立先生	平成22年 6月25日(金)
「肝機能障害の種類による食事の注意点~ 第6回 脂肪肝、慢性肝炎、食道静脈瘤の食事~」	足立先生	平成22年 7月16日(金)
第7回 「肝がんについて」	遠藤先生	平成22年 7月30日(金)
第8回 「肝臓にやさしい食事~Part3 鉄制限食?BCAAで何?」	足立先生	平成22年 8月27日(金)
第9回 「肝臓の検査のみかた」	清家先生	平成22年 9月 3日(金)
第10回 「肝がんについて」	遠藤先生	平成22年 9月17日(金)
第11回 「パランスの良い食事とは??」	足立先生	平成22年10月15日(金)
第12回 「肝がんについて」	清家先生	平成22年12月17日(金)
第13回 「肝炎について」	遠藤先生	平成23年 1月14日(金)
第14回 「肝臓に優しい食事」	足立先生	平成23年 2月25日(金)
第15回 「肝炎について」	所先生	平成23年 3月25日(金)
第16回 「肝臓検査の見方」	吉原光江先生	平成23年 5月13日(金)
第17回 「肝炎・肝がんについて」	本田浩一先生	平成23年 6月17日(金)
第18回 「肝臓にやさしい食事~食生活を見直しましょう」	足立和代先生	平成23年 7月22日(金)
第19回 「肝臓と検査の見方」	清家正隆先生	平成23年10月28日(金)
第20回 「おいしい減塩食の工夫」	足立和代先生	平成24年 2月10日(金)
第21回 「肝炎・肝がん」	遠藤美月先生	平成24年 3月23日(金)
第22回 「やさしい肝臓病のお話」	本田浩一先生	平成24年 5月18日(金)
第22回 「肝機能のみかた」	清家正隆先生	平成24年 6月15日(金)
第24回 「肝炎・肝がん」	遠藤美月先生	平成24年 7月13日(金)
第22回 「やさしい肝臓病のお話」	本田浩一先生	平成24年 5月18日(金)
第23回 「肝機能のみかた」	清家正隆先生	平成24年 6月15日(金)
第24回 「肝炎・肝がん」	遠藤美月先生	平成24年 7月13日(金)
第25回 「脂肪肝になったら」	清家正隆先生	平成24年10月19日(金)
第26回 「肝臓検査のみかた」	遠藤美月先生	平成24年11月16日(金)
第27回 「肝臓にやさしい食事」	足立和代先生	平成25年 1月25日(金)
第28回 「肝炎・肝がん」	吉原光江先生	平成25年 6月28日(金)
第29回 「脂肪肝とメタボリック症候群について」	本田浩一先生	平成25年 9月27日(金)
第30回 「肝臓にやさしい食事」	足立和代先生	平成25年12月20日(金)
第31回 「肝臓検査の見方」	荒川光江先生	平成26年12月12日(金)
第32回 「肝炎・肝がんについて」	西村順子先生	平成27年5月29日(金)



肝疾患について



◆ C型肝炎

1. 診断

① HCV 抗体の有無について調べる。検査は保健所や医療機関において無料で受けることができます。

(検査結果)

- ・陰性 C型肝炎ウイルスには感染したことはありません
- ・陽性 C型肝炎ウイルスに感染したことがある、あるいは現在も感染しています。
- ② HCV 抗体が陽性の場合、HCV RNA をリアルタイム PCR 法 (タックマン PCR 法) により確認する必要があります。医療機関において検査します(有料)。

(検査結果)

- ・検出しない ウイルスは体内から排除されており、治療の必要はありません。
- ・検出する(量が表示される)

ウイルスが存在し、治療を検討する必要があります。

- 2. 治療対象者 (日本肝臓学会 C型肝炎診療ガイドライン第 3.2 版簡易版より抜粋)
 ・ALT値上昇例(ALT 30 IU/L)、あるいは血小板数低下例(血小板数15万/μ1未満)の
 - C型慢性肝炎患者は、原則として全例抗ウイルス療法の治療対象です。

3. 治療法

- ① 抗ウイルス療法
 - ・経口抗ウイルス薬(飲み薬による治療)

ウイルス型 1型	著効率(ウイルス駆除率)	主な問題点
治療薬 1. ダクラタスビル + アスナブレビル (ダクルインザ + スンベプラ)	薬剤耐性がなければ98%	肝障害を起こすことがある
2. ソホスブビル+レディパスビル (ハーボニー)	ほぼ100%。薬剤耐性検査は必要ない。	腎機能が悪い人には使えない
3. オムビタスビル+パリタプレビル (ヴィキラックス)	薬剤耐性がなければほぼ100%	一部の高血圧薬との併用に 注意が必要
ウイルス型 2型 治療薬		
1. ソホスブビル+リバビリン (ソバルディ+コペガスまたはレベトー	ル) 96.4%。薬剤耐性検査は必要ない。	リバビリンによる貧血に注意が必要

・インターフェロン

最近、ほとんどの患者さんは経口抗ウイルス薬により治療されており、インターフェロン治療はほとんど行われなくなりました。

② 肝庇護療法

- ・肝炎による肝障害を和らげる治療法(内服薬と注射薬)
- ・肝庇護療法を受けていても、経口抗ウイルス薬で治療できることが多いので、
- 一度経口抗ウイルス薬治療について主治医の先生に尋ねてください。

4. 最近の C型肝炎治療

以前はウイルスを駆除するにはインターフェロンという注射薬を使う方法しかありませんでしたが、発熱、倦怠感、食欲不振など副作用の多い治療法でした。2014 年 9 月よりジェノタイプ1b型の患者さんに対してはダグラタスビル+アスナプレビルという飲み薬による抗ウイルス療法が使えるようになりました。薬剤耐性ウイルスがいない場合の(事前に薬剤耐性を調べる必要あり)ウイルス駆除率は98%であり、非常に治療効果の高い薬です。副作用は少ないですが、肝障害や高熱が出現することがあるので注意が必要です。ジェノタイプ1型の患者さんでは2015 年 9 月にソホスブビル+レディパスビルという内服薬が保険適用になりました。国内第 3 相試験でのウイルス駆除率は100%で、副作用はほとんどありません。2015 年 11 月にはオムビタスビル+パリタプレビル(ヴィキラックス)という内服薬が保険適用になりました。国内第 3 相試験では、薬剤耐性がない患者さんの治療効果は100%でした。一部の高血圧薬(カルシウム拮抗薬)との併用で血圧が下がり過ぎることがあるので注意が必要です。

ジェノタイプ2型においては2015年5月にソホスブビル+リバビリン併用療法が保険適用になり、国内第3相試験におけるウイルス駆除率は96.4%でした。副作用も軽度ですが、リバビリンという薬を併用しますので、貧血に注意する必要があります。

腹水や黄疸が出現している非代償性肝硬変の患者さんに対する、経口抗ウイルス療 法の有効性や安全性はよく分かっておらず、非代償性の肝硬変患者は治療ができませ ん。

5. 日本における C型肝炎の現状、問題点と大分県での取り組み

2011 年の時点で日本における C 型肝炎ウイルス感染者数は 100 万人~150 万人いると考えられています。C 型肝炎ウイルスの感染の有無については、保健所や医療機関において無料で受けることができますが、まだ、検査を受けられたことがない方が国民の半分ほどいると推定されています。さらに、検査を受けて陽性であると分かっていても、適切な治療を受けていない方も多いのも問題点の一つです。これらの問題点を解決するために、全国の肝疾患拠点病院を中心に啓蒙活動を続けてきましたが、まだまだ国民全体に情報が伝わっていないのが現状です。また、検査を行った方でもご自身の感染の有無についてご存じでない方も多数おられます。そのため、大分県独自の取り組みとして、今後、お薬手帳に C 型肝炎の抗体検査、B 型肝炎の抗原検査について記入するシールを貼る取り組みを始めていく予定にしています。副作用がほとんどない

薬で100%近い患者さんがよくなる時代になりましたので、一度ご自身の感染の有無について確認することをお勧めします。

<お薬手帳 貼付用シール見本>



タテ4cm ヨコ3cm

(文責 本田浩一)

◆ B型肝炎

<B型肝炎とは?>

B 型肝炎ウイルスが感染して肝臓に炎症が起こる病気です。肝炎が持続すると慢性肝炎から肝硬変、肝がんと進行する恐れがあります。日本では、約 130~150 万人(およそ 100人に 1人)が感染していると推定されています。大人が感染すると、急性肝炎を起こす危険性はありますが、ほとんどの場合ウイルスは自然に体内から排除されます。ただし、欧米からはいってきた B型肝炎ウイルスの特殊なタイプ(ジェノタイプA)では大人が感染しても慢性化してキャリアー(ウイルスを持っている状態)となることがあります。幼児期に感染するとキャリアーとなり長期間感染が持続します。そのため幼児期の感染は慢性肝炎となり進行する危険性があります。

<感染経路>

感染者の血液や体液を介して感染します。出産時に母親から子供に感染する母子感染や、 輸血などの血液製剤、性行為、覚せい剤やピアスなど針の使い回しによる感染があります。 保育園での集団感染の報告もあります。

<診断>

B型肝炎ウイルスに感染している場合、血液検査で HBs 抗原が陽性になります。保健所や登録医療機関では無料で検査を受けることができます。HBs 抗原が陽性で肝機能異常 (AST、ALT が異常値) がある場合は治療を考える必要があります。その場合 B型肝炎ウイルス量も測定します。また、肝炎による炎症や線維化(肝臓の硬さ)を詳しく調べるために、肝臓の組織を針で少量採取して顕微鏡で見る肝生検を行うこともあります。肝生検は短期間の入院が必要です。

く治療>

肝炎が持続していて、B型肝炎ウイルスが多い場合は抗ウイルス薬によって治療します。 日本で使用できる抗ウイルス薬には、ゼフィックス、ヘプセラ、バラクルード、テノゼットがありすべて飲み薬です。ゼフィックスは長期間使用することでゼフィックスが効きにくいウイルスが出現する率が高く、最近はバラクルードまたはテノゼットが第一選択として用いられています。これらの薬はウイルスをかなり減らして肝炎抑えることができますが、体から駆除してしまうことはできません。そのため、自己判断で中止をすると肝炎がさらに悪くなる恐れがあり、用法を守ることが大事です。また、年齢が若くて肝臓の炎症が強く、B型肝炎ウイルスが比較的少ない場合にはインターフェロン(注射)を投与することもあります。抗ウイルス薬もインターフェロンも高額ですが国からの補助があります。肝炎が持続している場合は肝がんを合併する危険性があります。C型肝炎やアルコール 性肝炎など肝臓の病気では、肝硬変へ進行してから肝がんができることがほとんどです。 しかし、B型肝炎ではAST、ALTが正常で肝炎がない状態でも肝がんを合併することがあ り、さらに小児を含めた若い世代でも肝がんを合併することがあります。キャリアーと診 断された場合は定期的に病院で検査を受ける必要があります。当院では半年に1回の割合 で血液検査と画像検査(腹部エコー、CTなど)を行っています。

<B型肝炎ウイルスの再活性化について>

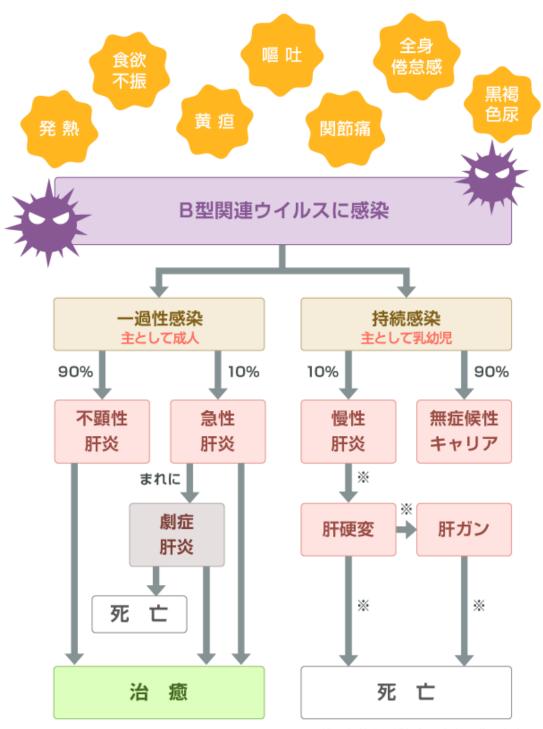
B型肝炎にかかって治癒していた患者さん(HBV 既感染者)で、抗がん剤治療などにより免疫力が低下した状態になって B型肝炎ウイルスが再び増えて起こる肝炎です。治療が遅れると死亡する場合もあります。抗がん剤治療の他に免疫抑制剤、臓器移植、ステロイド、リウマチや炎症性腸疾患(クローン病など)の治療薬である生物学的製剤が原因となりえます。HBV 既感染者とは血液検査で HBs 抗原が陰性で、 HBc 抗体が陽性または HBs 抗体が陽性の方を指します。免疫を下げる治療を受ける場合は B型肝炎ウイルスにかかったことがあるかを調べて、感染したことがあれば定期的に B型肝炎ウイルスの測定が必要です。

<B型肝炎の感染予防のために>

自分が感染している場合、血液、体液から感染するので他人に血液、体液を触らせないようにしましょう。歯ブラシやかみそりなどの日用品は自分専用にした方がいいでしょう。 一般的な生活では感染しないのでそれ以外は気にする必要はありません。感染の危険性がある子供や配偶者にはワクチン接種を考えましょう。

しかし、最近は出産時の予防対策により子供の新規感染はかなり減っています。

B 型肝炎の感染後の経過



※一部の患者さんが矢印の方向に進みます。

厚生労働省肝炎総合対策推進国民運動事業ホームページより引用

(文責 織部淳哉)

◆ アルコール性肝障害

肝細胞がんの多くはウイルス肝炎によるものと考えられてきました。しかし、ウイルス肝炎の治療の格段の進歩により、ウイルス性の肝細胞がんは減少してきました。最近は非ウイルス性 (NBNC) の肝がんが増加しています。現在は肝細胞がんのうち 30-40%前後が非ウイルス性と考えられています。そのうち半数はアルコール性と考えられています。

飲酒は疫学調査により、適度の量であれば長生きできることがわかっています。しかし、飲めない人や飲むと赤くなる人がいるように体質によって適度の量は違ってきます。また男女差もあります。女性は少ない量で、肝障害がすすみます。一般的にはお酒を毎日 2-3 合以上飲む人は肝臓病になりやすいと考えられます。さらにたくさん飲酒をすると肝臓病だけでなく全身へ悪い影響が出てきます。脳がお酒を要求するようになります。いわゆるアル中です。アル中になると内科での管理は困難です。膵臓や食道などのがんにもなりやすくなります。

飲酒したアルコールが体の中で代謝されるスピードや量は決まっていますので、それを超 える量は控える方がいいでしょう。

アルコール性肝障害には脂肪肝、線維症、肝硬変、肝がん、肝炎と様々な病態があります。 特に朝から大量飲酒を続けるとアルコール性肝炎のなかで、最も重症である、重症型アル コール性肝炎という病態になります。多くは肝硬変を合併しています。救命が難しくなり ます。

アルコール性肝障害ではγGTP が上昇することがあります。それ以外の所見がない場合があります。γGTP が高い場合は飲み過ぎです。また、血小板数が低い場合はかなり進行していて、肝硬変と考えて管理しましょう。

治療は禁酒以外にありません。ウコンやウルソなどの薬剤で抑えるのは無理です。原因を 取り除くのが、肝臓病の基本です。

最後に何らかの肝障害を指摘されてことがある場合はできれば禁酒が必要です。 肝障害がない場合は1合程度の飲酒は「百薬の長」となるかもしれません。

多くのお酒飲みは、2 合では酔えなくて、ブレーキもかかりません。休肝日の翌日はもっと 飲む方がいます。気をつけましょう。

またウイルス肝炎や他の肝臓病がある場合は飲酒量が少なくても、肝臓病が進行することがありますので、注意が必要です。

	度数	エタノール20gの目安	
ビール	5	中瓶 1本	500ml
日本酒	15	1合	180ml
焼酎	20	コップ半分	110ml
チューハイ	5	350ml缶 1.5缶	520ml
ワイン	14	1/4本	180ml
ウイスキー	48	ダブル1杯	60ml

アルコール量(g)=飲酒量(ml)×度数(%)÷100×0.8(g/ml)











(文責 清家正隆)

◆ 自己免疫性肝疾患

自分の免疫が勘違いをして自分の肝臓や肝臓の中の胆管に対して攻撃をしてしまう病気です。中年女性に発症することが多いのですが、最近は高齢の方でも診断されることがあります。放置しておくと肝硬変に至ります。早期発見早期治療で進行を遅らせることができます。主な疾患は次の二つがあります。

• 自己免疫性肝炎

なんらかの機序により自己の肝細胞に対して免疫反応がおこることによって起こる疾 患です。遺伝や感染することはなく、家族集積性も少ないといわれています。

• 原発性胆汁性肝硬変

原因不明の自己免疫により肝内の中等大の胆管が破壊される稀な疾患です。遺伝や感染することはありません。症状がないものと症状があって積極的な治療や厳重な経過 観察が必要となる進行するものがあります。

☆ 両方の疾患を同時に持っている人もいます。Overlap 症候群といいます。

診断

まずは血液検査(AST, ALT、ALP、 γ GTP、免疫グロブリン、抗核抗体、抗ミトコンドリア 抗体肝炎, ウイルスの有無、など)、画像診断(超音波検査、CT、MRI)などで原因や肝臓 の状態を調べます。飲酒歴や体重の変化などの生活歴も大切です。

下記(表1~表4)の診断基準を参考に診断しています。

確定診断や肝臓の状態の把握(肝硬変などになっているか、炎症が強いかどうかなど)、 治療法の選択のために 肝生検 という検査をすることがあります。

治療

原因によって治療は変わってきます。

- ・自己免疫性肝炎 ⇒ 免疫を抑える治療が中心。ステロイド、免疫抑制剤、ウルソなど
- ・原発性胆汁性肝硬変 ⇒ ウルソ、ベザフィブラート、

このような治療をきちんと行えば、肝硬変まで至らずに普通に生活できることが多い疾患です。また、免疫の異常であることが多いので自然に治るのは難しく、途中で治療をやめてしまうと肝炎が進行し、肝硬変になってしまうことがありますので、気長に治療をする必要があります。

また、この病気で使用することのあるステロイドは急に中止すると副腎不全という状態になることもありますので、お薬を減らせるか、やめることができるかどうかはかかりつけ 医または専門医に必ず相談してください。

☆ この両疾患は現在、特定疾患に指定されております。病状によって適応になる方とならない方がいますのでかかりつけ医、専門医にご相談ください。

表 1、自己免疫性肝炎の診断指針・治療指針(2013年)(抜粋)

厚生労働省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 自己免疫性肝炎分科会

- 1. 他の原因による肝障害が否定される
- 2. 抗核抗体陽性あるいは抗平滑筋抗体陽性
- 3. IgG 高値 (>基準上限値 1.1 倍)
- 4. 組織学的に interface hepatitis や形質細胞浸潤がみられる
- 5. 副腎皮質ステロイドが著効する

典型例

上記項目で1を満たし、 $2\sim5$ のうち3項目以上を認める。

非典型例

上記項目で1を満たし、2~5の所見の1~2項目を認める。

表2、改訂版国際診断基準・スコアリングシステム

(International Autoimmune Hepatitis Group, 1999)

項目	基準	点数
性別	女性	+2
	< 1.5	+2
ALP/AST or ALP/ALT	1.5 - 3.0	0
	> 3.0	-2
	> 2.0	+3
グロブリン or IgG	1.5 - 2.0	+2
クロンリン of igo	1.0 - 1.5	+1
	< 1.0	0
	> 1:80	+3
ANA*, SMA2*, LKM-1抗体	1:80	+2
3*	1:40	+1
	< 1:40	0
AMA ^{4*}	陽性	-4
肝炎ウイルスマーカー	陽性	-3
加及プリルスマーカ	陰性	+3
薬物投与歴	陽性	-4
来1971又于正	陰性	+1
平均アルコール摂取量	<25g/∃	+2
1 -492 70 コー70 1534人主	>60g/ ⊟	-2
HLA	DR3 or DR4	+1
他の自己免疫疾患	陽性	+2
他の自己抗体	陽性	+2
	Interface hepatitis	+3
	形質細胞浸潤	+1
組織所見	ロゼット 形成	+1
11111 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	上記所見なし	-5
	胆管病変	-3
	他の所見	-3
治療反応性	著効	+2
/ LI /T//////UTI	再発	+3

(*:抗核抗体, 2* :抗平滑筋抗体, 3* :肝腎マイクロゾーム抗体, 4* :抗ミトコンドリア抗体)

確診:>15 点 疑診:10-15 点

表3、簡易型スコアリングシステム

(International Autoimmune Hepatitis Group, 2008)

	項目	基準	点数
	ANA or SMA	>1:40	+1
自己抗体	ANA or SMA	> 1:80	+2
日已加平	LKM-1 抗体	>1:40	+2
	SLA 抗体*	陽性	+2
IgG		> 正常上限の 1.1 倍	+2
		> 正常上限	+1
		正常	0
組織所見		典型像	+2
		適応像	+1
		なし	0
肝炎ウイルスマーカー		陰性	+2
		陽性	0

(*:肝可溶性抗原抗体)

確診:>7点 疑診:6点

表4. 原発性胆汁性肝硬変の診断基準 (平成22年度)

「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 原発性胆汁性肝硬変分科会 次のいずれか1つに該当するものを PBC と診断する.

- 1) 組織学的に CNSDC を認め、検査所見が PBC として矛盾しないもの.
- 2) AMA が陽性で、組織学的には CNSDC の所見を認めないが、PBC に矛盾しない (compatible) 組織像を示すもの.
- 3) 組織学的検索の機会はないが、AMA が陽性で、しかも臨床像及び経過から PBC と考えられるもの

(文責 荒川光江)

◆ 脂肪肝

糖尿病、動脈硬化、慢性腎臓病、心筋梗塞、脳卒中など生命に関わる疾患へドミノ倒しのように次々と病気が襲ってくる一連の流れを「メタボリックドミノ」と表現し、脂肪肝はこのドミノの上流にあります。脂肪肝という駒を倒さないこと、つまり脂肪肝を改善することが、ドミノの下流に位置する重篤な病気を引き起こさないことにつながるといえるのです。

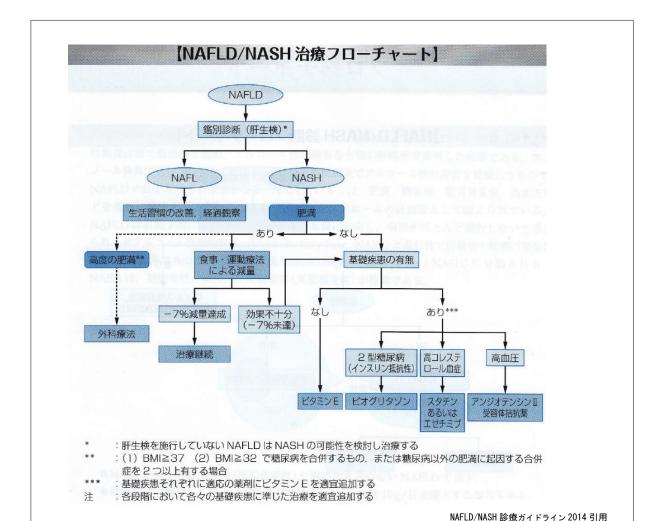
脂肪肝の診断は主に体に負担の少ない超音波検査(エコー検査)で行われ、①エコー輝度の上昇(肝臓が白っぽく見える) ②肝腎コントラストの上昇(肝臓が腎臓より白っぽくみえる)、③肝内脈管系が不明瞭になる、④肝深部エコーの減衰増強(エコーが奥まで届かず見えにくくなる)が指標となります。肝臓の細胞を少量採取し顕微鏡で調べる方法を肝生検といい、入院が必要になります。肝生検では、肝臓内の肝細胞の30%以上に脂肪空胞が認められる状態を脂肪肝と診断します。脂肪肝があっても、自覚症状はほとんどなく健診などで見つかることが多いです。

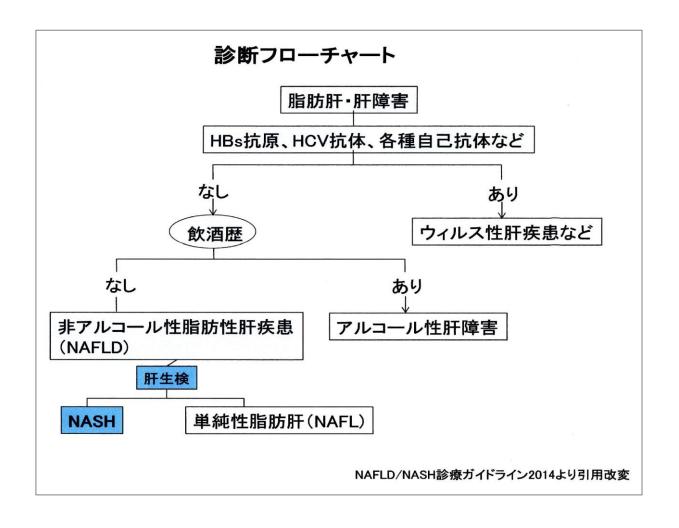
脂肪肝の原因は、大きく分けてお酒(アルコール性)とお酒以外(非アルコール性)に分けられます。アルコール性は飲酒が原因の脂肪肝で、アルコールを肝臓で処理するときに脂肪をつくってしまうために起こります。非アルコール性の原因としては過栄養、肥満、糖尿病、脂質異常症、また二次性として一部の薬剤(タモキシフェン,ステロイドなど)、栄養障害、遺伝性などがあげられます。非アルコール性脂肪肝の中に非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)という進行する病態が含まれます。

非アルコール性脂肪性肝炎(NASH:ナッシュ)は、多量の飲酒歴がないにもかかわらず、 肝組織所見がアルコール性肝炎のようになり、慢性に経過し肝硬変に進行する可能性があ る疾患です。NASHの診断は、非飲酒者であること(エタノールに換算して1日20g以下)、 病理組織学的に脂肪性肝炎を認めること、他の肝障害の原因(ウィルス性や自己免疫性) を認めないことにより診断されます。ちなみに、エタノール換算 20g の飲酒の目安はそれぞれ日本酒1合、ビール中ビン1本、ウィスキーダブル1杯、焼酎ぐいのみ1杯、ワイングラス2杯程度です。

NASH は脂肪肝の約10%に認められ、その予後については未だ不明な点も多いのですが、NASH の5~20%が5~10年後に肝硬変まで進行するという報告もあります。NASH からの発癌も報告されています。発癌率の報告にばらつきはあるものの、NASH 肝硬変からの年率発癌率が2.6%との報告もあり、線維化の進行したNASH は肝炎ウィルスに感染して肝硬変になった症例に匹敵する発癌の危険性があると考えられます。大分大学と関連2施設の肝臓癌の患者さんの推移では、B型・C型肝炎ウィルス以外の非ウィルス性肝疾患からの発癌が年々増加しており、近年では30%を超えています。その主な要因は、肝炎ウィルス感染予防対策や抗ウィルス療法の進歩による肝炎ウィルス関連の発癌率の低下と、NASH 関連肝細胞癌の増加によると推察されます。

脂肪肝の治療は、アルコール性であれば、当然禁酒が治療になります。非アルコール性脂肪肝では、肥満や糖尿病、脂質異常症など生活習慣病が関係していることが多いため、食事療法、運動療法を用いた減量が第一となります。日本肝臓学会が「NAFLD/NASH の診療ガイドライン 2014」で示した非アルコール性脂肪肝の改善に勧められる食事内容として、低脂肪食(脂質のエネルギー比率 20~25%)と低カロリー食の併用があげられています。運動はカロリーを燃焼させると同時に筋肉量を増加させることでインスリン抵抗性が改善され、脂肪肝、NASH の治療法として非常に重要です。30~60分、週 3~4 回の有酸素運動(ウォーキングや軽いジョギング、踏み台昇降など)を継続することが効果的です。NASH の薬物療法は、現時点では十分効果を有する治療は確立していないのが現状ですが、その中で国際的に有用性が認められているのは、ビタミン E とインスリン抵抗性改善薬のチアゾリジン系薬剤(ピオグリタゾン)です。一旦 NASH と診断された症例でも、減量等の治療を的確に行えば、組織学的な改善も認められるため、病態をしっかり認識し治療を行うことが重要です。





◆ あとがき

2015 年もあとわずかになりました。随分といろんな事がありました。フランスの 2 度のテロ事件、イスラム国の台頭と日本人殺害事件、アメリカの銃乱射、天津の大爆発、日本ではマンションの杭うち問題、日本・中国・韓国のギクシャクした関係、地球温暖化など、閉塞感の充満した状況の中で人間のもがいている姿が浮かんでくる 1 年でした。暮れには大村先生と梶田先生のノーベル賞受賞という明るい話題が飛び込んできましたが、人類史上はじめて経験する少子高齢化の社会構造の変化にただ佇み、驚いている自分自身にも無力感が漂っています。そんな中でこの 1 年間、肝炎領域は本当に進歩しました。肝硬変の患者が 3 ヶ月でほとんど副作用なく治り、明るく、元気になる姿はすばらしいものです。医療の進歩だけは実感できる 1 年でした。2016 年がいい年でありますように。

さて手作りの「診療連携パンフレット改訂版」が完成しました。作成に当たっては協力病院の先生方、健康対策課の首藤さん、消化器内科のスタッフ、高根さん、佐藤さん、ボランティアで手伝ってくれた武田さん、三宅さんありがとうございました。

(清家正隆)

平成27年は私ごとですが健康で過ごせることは素晴らしいと実感した年となりました。 肝疾患相談センターでは10月にHPがリニューアルいたしました。今後の新たな取り組みも 掲載予定です。またセミナーや市民公開講座への参加が難しい方は、プログラムや資料など を掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

(高根栄子)

今年の市民公開講座の参加者の方から、「今回の講演で初めてウイルス性肝炎のことを知った、もっと市民に周知、啓発活動をしてほしい」というご意見を頂きました。セミナー参加者の方からは、「肝炎の治療は日々進歩している、更に最新の話を聞きたい」という要望を頂きました。今後、皆さまの要望に応えるべく、県内各地において市民の方を対象にした出張肝臓病教室や、保健師、看護師等の医療従事者の方を対象にした勉強会の開催を計画しています。開催につきましては、ホームページやポスター等でお知らせします。開催希望等、肝疾患相談センターまでご連絡ください。また、肝疾患診療についてのご相談もお待ちしております。

(佐藤雪子)



肝疾患相談センター ホームページ http://www.med.oita-u.ac.jp/kansikkan/

